

令和 5 年度（2023 年度）

宇部看護専門学校

学校自己点検・自己評価

評価対象期間 令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日

学校評価（学校関係者評価）

1. 学校自己点検・自己評価の目的

看護師等養成所として「教育水準の維持・向上」と「創意工夫のある教育の追究」を図るため学校自己点検・自己評価について必要な事項を定め、評価結果を活用して教育を改善していくことを目的とする。

2. 自己評価基準

各項目の達成度により、下記の4段階で自己評価する。

- 4 （当てはまる）
- 3 （だいたい当てはまる）
- 2 （あまり当てはまらない）
- 1 （当てはまらない）

3. 学校自己点検・自己評価の内容

- I. 教育理念・教育目的
- II. 教育目標
- III. 教育課程経営
- IV. 教授・学習・評価過程
- V. 経営・管理過程
- VI. 入学
- VII. 卒業・就業・進学
- VIII. 地域貢献
- IX. 研究

4. 自己点検・自己評価結果

I. 教育理念・教育目的 【評価点 3.1】

II. 教育目標 【評価点 3.1】

【総括】

准看護科は令和4年度から、看護科は令和5年度から新しいカリキュラムでの准看護師・看護師の教育を実施している。カリキュラム改正にあたり、指定規則に基づき、法との整合性を考慮しながら、教育理念・教育目的、教育目標を教員間で共有し、学生の指針となる教育内容を設定してきた。教育目標は一貫性をもって具体的に設定しており、学則、学生便覧・実習要綱に明文化している。また、入学時、進級時のオリエンテーション、行事等機会をとらえて、学生にも周知していくようにしている。

一方、運用が始まったばかりであり、移行期がコロナ禍と重なったことも相まって、学生観、教育観等、教員間での捉え方のずれも生じてきている。准看護科、看護科の独自性を生かすとともに両科を併設している本校の特徴も踏まえ、本校のよさを学生が実感し卒業までの一貫した指針となるよう1年ごとに見直しが求められる。

【課題】

教育理念・教育目的は最も重要な部分であり、卒業時の到達度を明確にして継続的に改善・検討をしていくことが課題である。目標の到達レベルについては、学生個々のレディネスや実態を把握し、卒業後の継続教育も踏まえて、具体的で実現可能なものかどうかを検証していくことが大切である。

Ⅲ. 教育課程経営 【評価点 3.0】

【総括】

教育課程の編成については、単位履修の考え方、科目の配列及び単位認定・評価について学則、学生便覧、実習要綱に明文化し、学生にも周知している。臨地実習については、実習施設ごとに事前事後の連絡会議を行い、本校の教育理念・教育目的、教育目標についての理解を図り、学生の学びを保障し支援する体制を整えている。

講義や実習等において教員の専門性を生かした配置を行うよう編成において配慮している。また、研修会への参加等自己研鑽の機会を与える体制を整えるよう努めている。しかし、現実的には教員数の安定的な確保、経験や専門性等の問題から、十分な体制が整っているとは言えない。

【課題】

教員の個別の状況も踏まえながら、自己研鑽ができる時間の確保、OJT等の研修方法・内容の工夫を行ない教員が互いに授業参観・授業評価をするといった相互研鑽を保証する体制を整え、教員が自らの教育力を高める取り組みが必要である。

Ⅳ. 教授・学習・評価過程 【評価点 2.8】

【総括】

授業計画は科目ごとに作成し、ホームページ上で閲覧できるようにしている。また、就業先にも時間割表を送付し学生が学習に取り組みやすいよう協力を得ている。授業案や実習指導案、授業展開については、各担当教員が作成・実施している。その分、指導については各教員の裁量に任される部分が多くなり、学生に対して一貫した指導を行なうためにも外部講師や教員間での情報共有を行い、重複や整合性・発展性について連携を図ることが大切である。また、授業評価については科目ごとに実施しているが、それをもとに具体的な授業改善につながっているとはいえない。評価方法、評価対象等の改善が必要である。

【課題】

学生からの授業評価アンケートの結果をタイムリーに生かせるようPDCAサイクルを意識した評価内容、評価方法等の検討が必要である。また、授業研究を通して評価を行い授業の工夫や改善にむけて取り組む必要がある。

V 経営・管理運営 【評価点 2.7】

【総括】

両科教務主任、運営マネージャーの連絡調整会議を実施し、学生の状況や教職員の意見等について情報共有や課題抽出を行い、それらが設置者にタイムリーに伝わるように努めている。組織体制として、運営委員会、教務会議、教員会議、講師会議、実習調整会議を設け、本校の教育全般について教職員の共通理解を図り、学生の効果的な支援を行うために協議を重ねている。また、担任や担当教員による評価面接「なんでも相談窓口」を設置し様々な立場の者に相談できる体制を整えている。

しかし、近年組織体制の変更や教職員の入れ替わりが激しく、組織内の課題共有が十分ではない。経営方針と運営方針を明確にするとともに、組織構成員の意志が反映でき

る体制を整えることが必要である。

また、看護の専門職教育に必要な環境整備について、財政状況とのバランスを取りながら計画していくことが求められる。

【課題】

組織体制を生かしたスムーズな経営管理ができていないことが課題である。経営方針や運営方針を明確にし、経営と運営に係る組織体制や整備計画等、将来構想のもとに明示する必要がある。

VI 入学【評価点 2.6】

VII 卒業・就業・進学【評価点 2.6】

【総括】

受験者確保に向けて、高校訪問や進路ガイダンスへの参加、学校見学等積極的な取組を進めているが、年々受験者数が減少しているのが実情である。入学者の状況や推移について、選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析・検証はするが、教育効果を期待する入学者の確保とはなっていない状況である。

卒業後の進路については、医療機関等からの資料を掲示したり紹介したりするとともに必要に応じて個別に学生に対応している。また、看護協会と連携して学生への就職ガイダンスを実施している。卒業生の就業や進学の状況は数値として経年的に把握しているが、就業先との情報交換や調査等により具体的に捉え、分析して教育活動に生かすところには至っていない。

【課題】

社会情勢や受験者の動向等を見極め、地域に根差した看護学校として今後の在り方について検討を進めていくことが必要である。

卒業生の就職先との情報交換等をとおして活動状況を把握・分析し、具体的な教育活動に生かすことが必要である。

VIII 地域貢献【評価点 2.3】

IX 研究【評価点 2.0】

【総括】

山口宇部空港がある地域の特色を生かして山口県、宇部市をはじめ関係機関と合同で実施する「山口宇部空港消防救難訓練」への参加や地域のボランティア団体が主催する「happy together」「はあ〜と of ふれんず」へ参加等により、地域貢献を行っている。なお、留学生や帰国学生の受け入れは学校の状況から行っていない。

教員の研究活動については、研修会への参加は予算化して行えるようにしている。また、研修に参加した場合は、教員会議等で伝達を行い全体の教員に還元できるようにしている。

しかし、現状の教員数と個々の業務分担を考えると時間的に難しい状況であり、学会への参加や発表、他の研究者との交流・連携等が行える体制は整っていない。

【課題】

研究活動の一環として、個々の教職員の資質向上に係る研修に確実に参加できる体制づくりと本校の実態に応じた方法を工夫する必要がある。